

米国発の株価調整、新興国株式への影響について

Insights from UBS Asset Management

ポイント

- ✓ 米国株は、米長期金利の急上昇をきっかけに楽観ムードが一変、調整基調が強まる
- ✓ 新興国株は、投資家のリスク回避から相対的なファンダメンタルズの強さを反映し、年初来ではプラスを維持
- ✓ 短期的には不安定な展開が想定されるも、中期的には新興国株式は徐々に上昇基調へ回帰する展開を見込む

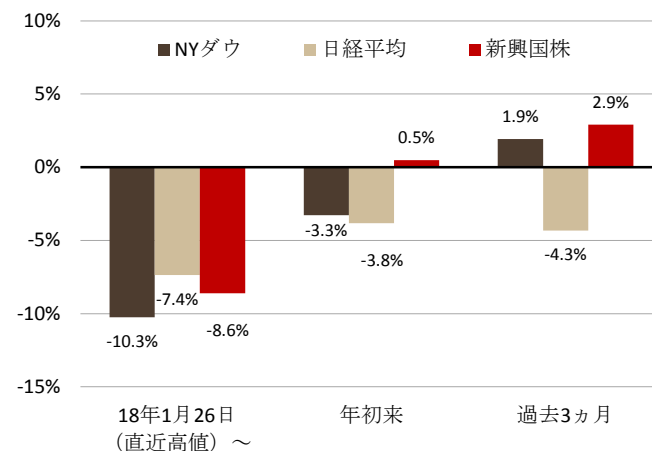
足元の米国株式急落の背景

- ✓ 米国株式は、過去 1 年以上大きな調整が見られず、右肩上がりでの上昇を続けてきました。特に年明け以降は、世界好景気と米税制改革からの恩恵を追い風に、楽観的ムードが株価を大きく押し上げてきました。
- ✓ 相場急変のきっかけは、米賃金の伸びに伴う長期金利の上昇です。米国 10 年債利回りは、インフレと財政拡大の動きを嫌気し、約 4 年ぶりの水準まで上昇しました。金利上昇が個人消費も抑制し米景気の足かせになるとの懸念が強まり、投資家のリスク選好ムードが急速に後退しています。
- ✓ 足元米国発の株価急落は、世界的にファンダメンタルズが良好で、企業業績が堅調な状況下、懸念されてきた割高感が適正水準に向う「健全な調整」に留まると見られています。ただし、市場は長きにわたり低金利・低インフレ、相場変動が極めて小さい世界に慣れてきたことから、今回の変化に対する適応には時間を要する可能性があります。

新興国株式への影響

- ✓ 新興国株式は、今回の米国株式の急落を受けて、影響を受けましたが、下落率は米国株に比較して抑えられています。年初来では、依然プラスの水準を保つなど、下値抵抗力を示しています。
- ✓ 新興国のファンダメンタルズの相対的な強さが株価の下落幅に反映しており、全面的なリスク回避のパニック売りとはなっていません。
- ✓ 景気循環の後期に到達しつつあると見られる米国に対し、新興国経済の多くが成長回復期にあり、金融緩和基調の継続が下値を支えていると見られます。

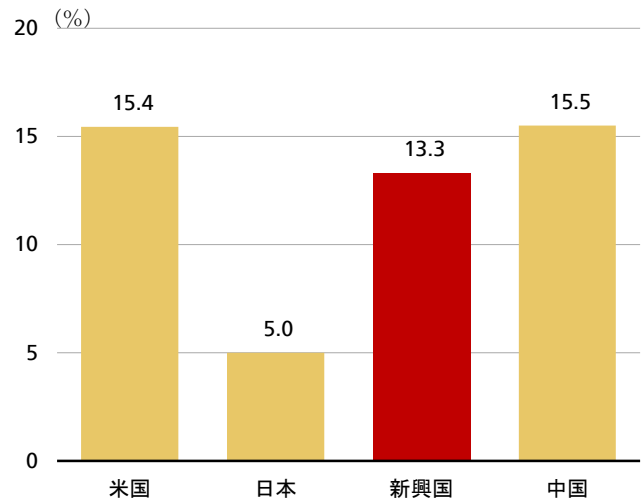
■株式市場の騰落率 (2018年2月8日現在)



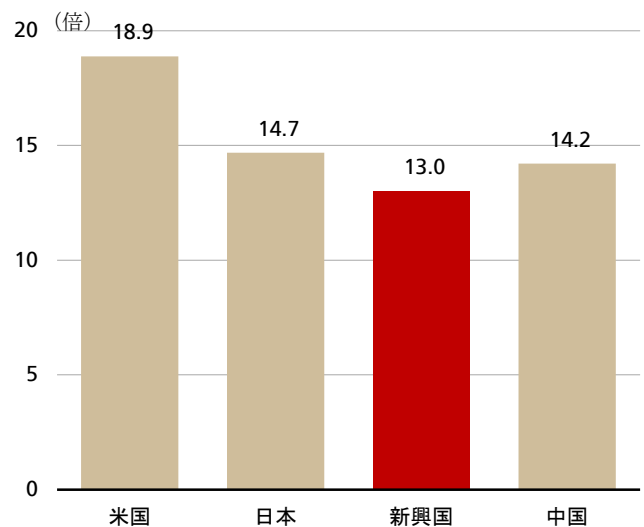
今後の新興国株式の見通し

- ✓ 今後については、しばらくの間は、損切りルールで運用するファンドや、相場下落によるマージンコールへの対応など、リスク許容度の低い投資家のポジション解消などにより市場が不安定になる事も想定されます。
- ✓ しかしながら、世界経済の見通しや新興国企業の業績動向は堅調に推移をしており、これまでの弊社見通しと何ら変化はありません。
- ✓ ここ数日の下落によって、新興国株式のバリュエーションの魅力はさらに高まっており、新興国株式への投資妙味が増している状況にあると考えております。
- ✓ 短期的には値幅の大きい上下動が繰り返される不安定な展開が想定されますが、中期的には株式市場の基調としては、企業の良好な業績実態を反映し、新興国株式市場は徐々に上昇基調に回帰していくものと想定しております。
- ✓ 足元の下落局面については、成長性とクオリティを兼ね備える新興国の優良銘柄群への良好な投資機会を提供するものと捉えております。

■ 予想 EPS 伸び率 (2018年1月31日現在)



■ 予想 PER (2018年1月31日現在)



出所：トムソンロイター 予想 EPS 伸び率、予想 PER は MSCI 指数ベース上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

商号： UBS アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 412 号
加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できる情報をもとに UBS アセット・マネジメント株式会社によって作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© UBS 2018. キーシンボル及び UBS の各標章は、UBS の登録又は未登録商標です。UBS は全ての権利を留保します。